

倉橋賞を

受賞して



井上範子

についてであった。その時はまだこの道に入ってまもない時だったので、何もわからないままに日本女子大学で開かれた第十回大会に発表させていだいた。後から常任委員の先生の一人に「いい発表で倉橋賞の候補に上

る。私は思いきってとりあげることにした。それ以来数年来の資料ととりくみ、毎日ぼろ大な数字にとらめっこし、苦手の算盤や計算器をつかう毎日が続いた。非常に苦しかった。しかし光明を求める楽しい一歩一歩でもあった。

この度、日本保育学会第十六回大会において、「現行幼児知能検査の吟味―幼児の知能測定における問題点―」という研究発表で倉橋賞を受賞することができた。これは幼児教育にたずさわるものとして最高の栄誉であり、私は感激で胸が一杯である。

「この度、日本保育学会第十六回大会において、『現行幼児知能検査の吟味―幼児の知能測定における問題点―』という研究発表で倉橋賞を受賞することができた。これは幼児教育にたずさわるものとして最高の栄誉であり、私は感激で胸が一杯である。」

さて、私は学生時代に「人間の性格は幼児期に形成される」というフロイドのこぼにひかれ、その「幼児期の教育こそ教育の中でも最も重要で難かしい問題である」という今はなき長田博士の講演にはげまされ幼児教育にたずさわることにした。

私は大学卒業後直ちに現在の幼稚園に勤めたが、はじめのうちは何もわからず無我夢中であった。しかし、私の園の理事であり、また香川大学の心理学を担当しておられる佃先生から「何か問題をもって努力することが大切である」と言われ、それ以来何か問題をもって努力するよう気をつけている。最初に取り上げた問題は、集団指導における適期教育としての幼児の音感教育

今年度の発表は数年前から一度整理して発表したいと思いつけていたものであるが、問題が問題だけに現場の一教師がとりあげる問題としてはと、いくたびか躊躇した。しかしテストを行なえば必ず個人の知能指数の間には差が起ってくる。父母にどう説明すればよいか？ また教師自身、どのように解釈したらよいか。なやみになやんだ。しかしいかは解決しなければならぬ大切な問題であ

今にして思えば私の選んだ道は正しかったように思う。しかしこの道は困難ないばらの道でもある。私は倉橋賞受賞の感激をしつかり胸にだきしめ、困難ではあるが生甲斐のある幼児教育に精進していきたいと思っている。

終りに発表の機会を与えて下さった学会、絶えずはげましつつ御指導下さった先生方、研究の場を与えてくれた幼稚園、その他陰の力となって協力してくれた方々に対して「本当に有難うございました」といって結びとしたい。

(財団法人幼児研究所 高松幼稚園)